

2025. 6.25 Wed

at Tokyo Opera City

Concert Hall : Takemitsu Memorial

主催：一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ

助成：  文 化 庁

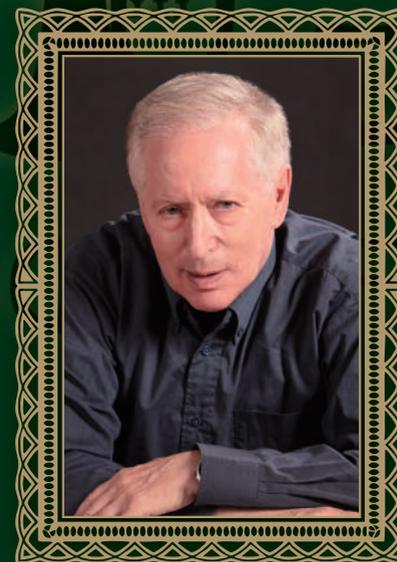
文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

独立行政法人日本芸術文化振興会



<https://www.tkwo.jp/>

つくる。つつむ。つなぐ。  
東京佼成ウインドオーケストラ



西から東へ、クラシックから現代へ。  
巨匠がつなぐ、時空のバトン。

巨匠が語る「ザ・クラシック」

Tokyo Kosei  
Wind Orchestra  
169  
Subscription Concert

Thomas Sanderling,  
Special Guest Conductor

## PROGRAM | プログラム

### セレナード第10番 変ロ長調「グラン・パルティータ」／W.A.モーツァルト

Serenade No.10 in B-flat major "Gran Partita" K.361(370a) / Wolfgang Amadeus Mozart [約47分]

第1楽章 ラルゴ・モルト・アレグロ  
I. Largo - Molto allegro

第2楽章 メヌエット  
II. Menuetto

第3楽章 アダージョ  
III. Adagio

第4楽章 メヌエット  
IV. Menuetto

第5楽章 ロマンس  
V. Romance

第6楽章 主題と変奏  
VI. Tema con Variazioni

第7楽章 フィナーレ  
VII. Finale

休憩 Intermission [20分]

### 交響曲第19番 変ホ長調／N.ミャスコフスキー

Symphony No.19 E-flat major Op.46 / Nikolai Miaskovsky [約28分]

第1楽章 マエストロ・アレグロ・ジョコソ  
I. Maestoso - Allegro giocoso

第2楽章 モデラート  
II. Moderato

第3楽章 アンダンテ・セリオソ  
III. Andante serioso

第4楽章 ポコ・マエストロ・ヴィーヴォ  
IV. Poco Maestoso - Vivo

### 組曲「ガイヌ」／A.I.ハチャトゥリアン／稲垣卓三

Suite "Gayaneh" / Aram Ilyich Khachaturian / Inagaki Takuzo [約18分]

I. 剣の舞  
I. SABRE DANCE

II. 子守歌  
II. LULLABY

III. バラの乙女たちの踊り  
III. DANCE OF YOUNG MAIDENS

IV. ガイヌのアダージョ  
IV. GAYANEH'S ADAGIO

V. レズギンカ  
V. LEZGHINKA

#### 注意

- 本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する機会があること、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承ください。
- ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- 携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- 演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮ください。

本公演に関するアンケートへ  
ご協力ください。



## PROFILE | 指揮者プロフィール

特別客演指揮者

トーマス・  
ザンデルリンク

Thomas Sanderling  
Special Guest Conductor



クルト・ザンデルリンクの長男として Санкт-ペテルブルグ で育つ。レニングラード音楽院と東ベルリン音楽院で学ぶ。弱冠24歳でハレ州立歌劇場の音楽監督に就任し、ドレスデン・シュターツカペレやライプツィヒ・ゲヴァントハウス管を指揮する。

演奏を聴き感銘を受けた ショスタコーヴィチ から、交響曲第13番&第14番のスコアを贈られ、ベルリン初演を果たした。その後『ミケランジェロ組曲』録音がきっかけとなり、バーンスタインとカラヤンのアシスタントを務めた。

これまでに、バイエルン放送響、ドレスデン・シュターツカペレ、NDRエルプフィル、ケルンWDR響、ベルリン・ドイツ響、ドレスデン・フィル、ロンドン・フィル、フィルハーモニア管、ウィーン響、チェコ・フィル等と共演。1978～83年ベルリン国立歌劇場常任客演指揮者を務め、ウィーン国立歌劇場、フランクフルト歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク国立歌劇場にも登場する。

ロシア・ナショナル・フィル首席客演指揮者、大阪交響楽団音楽監督&首席指揮者、ノヴォシビルスク・フィル首席指揮者兼芸術監督を歴任。現在、東京佼成ウインドオーケストラ特別客演指揮者を務める。

CDはドイツ・グラモフォン、ソニー・クラシカル、ナクソス、BIS、シャンドス、ベルリン・クラシックス等のレーベルから多数リリースし、ショスタコーヴィチ、マーラー、チャイコフスキー、タネーエフ、プロコフィエフ等の録音は高く評価されている。

# PROGRAM NOTES

曲目解説：中橋愛生 (TKWO楽芸員)

※本文中の「東京佼成ウインドオーケストラ」は「TKWO」と略しました。

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト作曲

## セレナード第10番 変口長調「グラン・パルティータ」 K.361 (K.370a)

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1829)は、言わずと知れた音楽史に燦然と輝くオーストリア生まれの大作作曲家。35歳という若さで早逝するまでに残した曲はおよそ900曲以上で、ピアノ曲からオペラ、番号が付いているだけでも41曲ある交響曲など、多種多様な楽曲を作っている。そのいずれでも一聴してモーツァルトのものだと分かる個性的でありつつも奇を衒わない音楽は「人類の至宝」と言っても過言ではないだろう。

モーツァルトが活躍した古典派の時代にはハルモニウムジークと呼ばれる管楽合奏が流行していた。オーボエ・クラリネット・ファゴット・ホルンを2本1組で運用する8重奏を採るのが一般的な編成で、主として貴族の晩餐会におけるBGM(ターフェルムジーク=食卓音楽)を演奏するものである。レパートリーとしては既存のオペラ作品の序曲やアリアをハルモニウムジーク用に編曲したものなどが好まれていたが、最初からハルモニウムジークのために作られたものも多数存在した。それらのほとんどが『ディヴェルティメント』もしくは『セレナード』であり、どちらも明るい響きを持つ短い楽章を複数持つ形式となっているのが特徴だ。モーツァルトもハルモニウムジークのための作品を10曲ほど(偽作と思われるものもあり、正確な数は不明)作っているほか、自作のオペラの編曲もしばしば行っている。なお、弦楽合奏や管弦混成の室内楽のために食卓音楽が作られることも多く、モーツァルトの場合は室内楽的な編成のものが『ディヴェルティメント』、管弦楽的なものが『セレナード』となっていることが多い。モーツァルト作で最も有名な食卓音楽は『アイネ・クライネ・ハナトムジーク』(1787)ではなからうか。

今回演奏される『セレナード第10番』も、こうしたハルモニウムジークの伝統の流れの上にある作品だが、様々な点で異色な楽曲だ。まず編成が多くハルモニウムジークと違い、13奏者とかなり多めの人数が指定されている。オーボエ・クラリネット・バセットホルン・FまたはEs管のホルン・B管のホルン・ファゴットが各2本ずつ、という12本の管楽器に加え、低音楽器として弦楽器のコントラバスという編成は、かなり特殊なものである。このうちコントラバスが入るのは、当時のハルモニウムジークでの慣例として低音の補強に何らかの低音楽器(コントラバスの他はコントラファゴットなど)が加えられることがあったことに由来するのであろう。モーツァルトはピツィカートを要求するなど最初からコントラバスを指定しているのだが、これを当時の演奏習慣に従ってコントラファゴットで代用することも許容しており、

実際にそう演奏されることもあるため、この曲はしばしば〈13管楽器のセレナード〉とも呼ばれている。また、作品の規模も大きく、全部で7つの楽章を持ち演奏時間は約50分、というのもハルモニウムジークとしては異例である。そのため〈グラン・パルティータ〉(大組曲)という副題が付されることが多いが、これはモーツァルト自身が付けたものではなく、後年になって第三者が自筆譜に赤字で書き入れたものである。こうした大規模なハルモニウムジーク作品は当時としては他に例が無く、空前絶後の存在であるのもまた異彩を放つ要因となっている。

そんな孤高の存在であるこの曲だが、いつ、何のために作られたのか、詳細は不明となっている。旧来の説では1781年に、ミュンヘンに移住したカール・テオドール侯という貴族に雇ってもらったためのアピールとして作った、とされていた。それは、〈グラン・パルティータ〉第6楽章が、テオドール侯の楽士たちが演奏した『フルート四重奏曲 K.Anh.171/285b』(1778)の第2楽章とほぼ同一であることと、使用されている五線紙の一部が1781年に作曲された『ヴァイオリン・ソナタ K.376』など3曲と一致していることが根拠となっている。しかし、初演が1784年3月23日にウィーンのブルク劇場にてクラリネット奏者であるアントン・シュタードラー(1753-1812)が主催した慈善演奏会であることから、そのために作られたとする新説も有力視されている。モーツァルトはシュタードラーのために『クラリネット五重奏曲』(1789)や『クラリネット協奏曲』(1791)を作曲している。その弟や仲間といった名手たちが揃っていたため当時はまだ珍しかったクラリネット(およびバセットホルン)を活躍させるために作ったという説であり、事実、曲の全体にわたってクラリネットは主導的な役割を果たし、第2楽章の第1トリオではその四重奏も登場する。その他にも、1782年8月4日に行われたモーツァルトの結婚式での式典後のパーティーのために作られた、という説もあり、結局のところは「1780年から1784年までの間に作られた」という程度しか言うことができない。なお、シュタードラーによる初演の時は第1・2・5・7楽章のみが演奏されている。また、この曲には『パルティータ(組曲) K.Anh.182』とされた標準的な8奏者によるハルモニウムジーク編成の版も作られているのだが、それは第1・2・3・7楽章のみで、これが作られたのが〈グラン・パルティータ〉より前なのか後なのかは分かっていない。弦楽五重奏版(K.46)も作られたとされていたが、現在ではこれは偽作であるとの見方が強い。

ハルモニウムジークはフランス革命以降の貴族社会の崩壊によって急速に廃れていくのだが、その失われた遺産のなかで、現在でも〈グラン・パルティータ〉はその威容を誇っていることは、間違いのない。

### 第1楽章 ラルゴ — モルト・アレグロ、変口長調、4/4拍子

序奏付きのソナタ形式。

### 第2楽章 メヌエット、変口長調、3/4拍子

2つのトリオ付きメヌエット。

### 第3楽章 アダージョ、変ホ長調、4／4拍子

展開部を欠くソナタ形式に近い三部形式。モーツァルトの伝記映画「アマデウス」(1984)に登場したことで知られる最も有名な楽章。

### 第4楽章 メヌエット、変ロ長調、3／4拍子

2つのトリオ付きメヌエット。全曲の中心に位置する小規模な楽章。

### 第5楽章 ロマンズ、変ホ長調、3／4拍子

三部形式。中間部はハ短調、2／4拍子によるアレグレット。

### 第6楽章 主題と変奏、変ロ長調、2／4拍子

変奏曲。主題と6つの変奏による。

### 第7楽章 フィナーレ、変ロ長調、2／4拍子

ロンド形式。全曲のなかで最も演奏時間が短い。

## ニコライ・ミャスコフスキー作曲

### 交響曲第19番 変ホ長調 作品46

ニコライ・ミャスコフスキー(1881-1950)は帝政ロシアに生まれ、ソヴィエト連邦で活躍した作曲家。現在のワルシャワ近郊にあるノヴォゲオルギエフスクで軍人の家に生まれ、士官学校で学びそのまま軍人となった。しかし、軍務の一方で幼少より親しんでいた音楽への憧れも強く、レインゴルド・グリエール(1875-1956)に作曲を個人的に師事、軍を退役した後の1906年に Санктペテルブルク音楽院に入学し、遅いスタートを切った。ここではアナトーリ・リャードフ(1855-1914)やニコライ・リムスキー＝コルサコフ(1844-1908)に師事したほか、生涯にわたって親交を持つことになるセルゲイ・プロコフィエフ(1891-1953)と同級となり、急速にその実力を高めていった。1911年に音楽院を卒業した後、第一次世界大戦に従軍、心に傷を負うも作曲活動を意欲的に続け、1921年よりモスクワ音楽院で教鞭を執り、ドミトリー・カバレフスキー(1904-1987)など優れた作曲家を輩出している。作風としては初期には実験的な意欲作も発表していたが、ソヴィエト連邦での社会主義リアリズムの体制もあり、国民

主義的な分かりやすく抒情的な作品が増えていくことになる。日本ではそれほど知名度の高い作曲家とは言えないが、ヴァイオリンのダヴィッド・オイストラフ(1908-1974)やチェロのムスティスラフ・ロストロポーヴィチ(1927-2007)といった名手によって協奏曲が愛奏されるなどしており、近年は再評価が高まってきている。

生涯で残した87曲(作品番号が付けられたものだけで、実際にはもう少し多いと思われる)の作品は様々な編成・曲種にわたっているが、その中核を成すのは交響曲であろう。 Санктペテルブルク音楽院の卒業制作として第1番(1908/1921改訂)を作曲しているときに、この分野への意欲を自認したという生粋のシンフォニストであるミャスコフスキーは、全部で27曲(番号のないシンフォニエッタを含めると29曲)の交響曲を発表している。それらは管弦楽作品であるが、今回演奏される第19番のみが吹奏楽のために作られている。なお、ミャスコフスキーの吹奏楽作品としては他に『2つの軍隊行進曲』(1930)、『2つの行進曲 作品53』(1941)、『劇的序曲 ト短調 作品60』(1942)が挙げられる。

『交響曲第19番』は、ミャスコフスキーと親交のあったモスクワ騎兵軍楽隊の指揮者イワン・ペトロフの委嘱により作られた。1939年1月5日より作曲開始、1月13日にピアノ・スコアが完成、1月26日にオーケストレーションが完成、という短期間で作曲されているためか、ミャスコフスキーの他の交響曲と比べるといくぶん規模が小さくはあるが、それでも全4楽章で演奏時間25分という充実した内容を持っている。初演は1939年2月15日にペトロフ指揮のモスクワ騎兵軍楽隊による赤軍21周年を記念したラジオ放送で、公開初演は同2月22日に同じ奏者によってモスクワ音楽院大ホールにて行われている。特徴的なのはその編成で、日本の通常の編成とは異なりアルト・クラリネットやバス・クラリネット、それにサクソフォンが一切使われていない。その代わりにコルネット、アルト・ホルン、テノール・ホルン、バリトン・ホルンがスコア最下段(管弦楽では弦楽5部が配される場所)にまとめて記載されている。これは、当時のモスクワの軍楽隊がドイツの軍楽隊の編成の影響を色濃く受けていたことに由来する。ドイツでは第一次世界大戦終結後の1935年まで軍楽隊でサクソフォンといったアドルフ・サクスが製作した楽器を使用しなかった。そのため、スコア最下段にまとめられた金管群も、よくサクソルン属の楽器と解説されるがそうではなく、ドイツ系の円錐型金管楽器群(同じ名前前でサクソルンと異なる楽器が存在する)が想定されよう。しかし、現代においてこれらの楽器の音色の差異が問題となることはほぼなく(ブルックナーの管弦楽作品などでの例が顕著)、今回もサクソルン属の楽器を使用して演奏される。

### 第1楽章 マエストーソ — アレグロ・ジョコーソ、変ホ長調、2／4拍子

序奏付きのソナタ形式。序奏はごく短い。

### 第2楽章 モデラート、ハ短調、3／4拍子

複合三部形式。中間部ではテンポを上げてゆくワルツ的楽章。

### 第3楽章 アンダンテ・セリオソ、変ロ長調、3/4拍子

三部形式。中間部では変イ長調に転じる。

### 第4楽章 ポコ・マエストロソ — ヴィーヴォ、変ホ長調、2/4(6/8)拍子

ロンド形式。2種類の拍子感が交互に登場し、最後は第1楽章の序奏が回帰する。

アラム・イリイチ・ハチャトゥリアン作曲(稲垣 卓三 編曲)

## 組曲「ガイヌ」

アラム・イリイチ・ハチャトゥリアン(1903-1978)は、帝政ロシアの支配下にあったコーカサス地方(現在のジョージアにあたる)で生まれたアルメニア人作曲家。本格的に音楽を志したのは18歳の頃と比較的遅かったが、幼少期よりトルコともほど近く様々な文化の交点であるコーカサス地方・アルメニアの民族音楽に触れていたことに由来する個性的な作品の数々で評価を高めていった。モスクワ音楽院で学んでいたときの作曲の師は、前出のミャスコフスキーであり、妻となった作曲家ニーナ・マカロフもまたミャスコフスキーの門弟である。

その代表作として知られるのが、アルメニアを舞台にしたバレエ『ガイヌ』の音楽である。このバレエは1939年に作曲されたバレエ『幸福』に大きく手を加えて改作した形で初版が1942年に3幕のバレエとして作曲され、初演は同年12月9日にロシアのペルミ市にあるキーロフ記念レニングラード・オペラ・バレエ劇場にて、キーロフ・バレエ団(現:マリインスキー・バレエ団)によって行われた。この初演は本日の指揮者ザンデルリンクが生まれた2ヶ月後のことである。その後、1957年5月にモスクワのポリショイ劇場にて再演される際に脚本が変更(政治的な理由があったのであろう)、それに伴って音楽も大きく改訂され、4幕から成るバレエとして完成した。そのストーリーは初版と改訂版で異なるのはもちろん、場合によっては劇場によっても違う場合があり、どれが本筋かは判然としない。基本的には、コルホーズ(ソヴィエトの集団農場)の娘ガイヌと、その周辺人物による恋愛模様を描いたものである。

バレエ全体は50を超える曲(版によって数が異なる)で構成されているが、ハチャトゥリアンはここから幾つかの曲を抜き出した演奏会用組曲を3種類作成している。だが、これら組曲版では主要曲・人気曲が分散しているため、通常はここから自由に抜粋し組み合わせて演奏されることが多い。今回演奏されるものも同様に、いずれも初版に含まれていた曲から5曲が抜粋されている。なお、音楽的な効果から選ばれているため、本来のストーリーの順とは異なっている。

管楽器が映えることもあり、吹奏楽への編曲で演奏されることは非常に多い。今回の編曲版はコントラバス奏者である稲垣卓三(1940-)によるもの。稲垣は大阪フィルハーモニー交響楽団や新日本フィルハーモニー交響楽団で首席奏者を務めたのち、1976年から2001年までの長らくTKWOに所属していた。その演奏活動の傍ら多数の編曲を手掛け、更には作曲家としても自作を発表し、そのうちの幾つかはTKWOが初演、録音している。この編曲はスコアには1979年にTKWOからの委嘱で作られたとされているが、1978年に依頼されたという別の記述もあり、定かではない。初演もいつであるか判然としないが、1980年3月23日に行われたTKWOの第26回定期演奏会(指揮:佐藤功太郎)において演奏された記録がある。なお、このときのプログラムには偶然にも今回同様に『グラン・パルティータ』がカップリングされていた。

### I. 剣の舞

クルド人による戦いの踊り。元々は無かったが初版初演の前日に急遽付け加えられた、という逸話も有名。ハチャトゥリアンを一躍有名にした小品。

### II. 子守歌

主人公ガイヌが子どもを寝かしつけつつ物思いにふける場面。アルメニア音楽特有の旋法と節回しが特徴的。

### III. バラの乙女たちの踊り

バレエ最終幕における、バラの飾りをかざして舞う祝典の場面。

### IV. ガイヌのアダージョ

ガイヌによるゆったりとした踊り。原曲ではチェロで歌われる旋律はハチャトゥリアン自身がピアノ曲『少年時代の画集』に取り入れられたり、映画「2001年宇宙の旅」で用いられたりしている。

### V. レズギンカ

コーカサス地方に住むレズギン人による力強く情熱的な民族舞踊。バレエでは最初の方に登場する曲。

# PROFILE | 楽団プロフィール



©Atsushi Yokota

## 東京佼成ウインドオーケストラ

Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年5月「佼成吹奏楽団」として発足し、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称。2022

年4月より「一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ」として活動する

日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。

2024年4月から大井剛史が第6代常任指揮者、中橋愛生が楽芸員に就任。

桂冠指揮者にフレデリック・フェネル、特別客演指揮者にトーマス・ザンデルリンク、

首席客演指揮者に飯森範親を擁している。

吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し

高い音楽芸術性を創出し、多くの人を楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。

また多くのレコーディング、メディアを通し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。

# MEMBERS | 演奏者名簿

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル

常任指揮者 …… 大井剛史

特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク

首席客演指揮者 …… 飯森範親

楽芸員 …… 中橋愛生

指揮 …… トーマス・ザンデルリンク

演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolo …… 丸田悠太

Flutes …… 白石法久、山内豊瑞

Oboes …… 宮村和宏※、桜田昌子

Bassoons …… 福井弘康※、坂井由佳

Clarinet in E b …… 松生知子

Clarinet in B b …… 大浦綾子、林裕子※、

野田祐太郎(Basset-horn)、

船橋菜里、河西拓也(Clarinet in E b)、

後藤榛花、近野千昌(Bass Clarinet)、

野辺かれん、吉川清香(Alto Clarinet)

Alto Clarinet …… 瀧美昌彦、

Bass Clarinet …… 笹岡航太、

Contrabass Clarinet …… 原浩介(Basset-horn)

Alto Saxophones …… 林田祐和※、五十嵐健太

Tenor Saxophone …… 田村真寛

Baritone Saxophone …… 栃尾克樹

Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、

オッタピアノノ・クリストーフォリ、

川村大、清川大介

Horns …… 上原宏、堀風翔※、小助川大河、

小山千鶴、中上玲

Alto Horns …… 小寺香奈、早野汐美

Tenor Trombones …… 今村岳志※、山内正博

Bass Trombone …… 丸田和輝

Euphoniums …… 岩黒綾乃、大山智、

大房美穂(Baritone)、鎌田裕子

Tubas …… 池田侑太、大塚哲也

Contrabass …… 前田芳彰

Timpani …… 坂本雄希

Percussion …… 和田光世、岩下美香、久保杏、

小林公哉、武山芳史、武藤厚志

Harp …… 操美穂子

※演奏委員

### コンサートマスター

林田祐和

### 副コンサートマスター

宮村和宏

### インスペクター

栃尾克樹

丸田悠太

今村岳志

### 企画委員

原浩介

### 役員

理事長 …… 勝川本久

常務理事 …… 八反田弘

専務理事 …… 堀風翔

監事 …… 清水宏一

### 事務局

事務局長 …… 勝川本久

事務局長次長 …… 堀風翔

事務局長補佐 …… 八反田弘

### 制作

篠原華

大橋証太(ステージマネージャー)

羽田紀子(ライブラリアン)

### 広報

尾崎真也

荻沼美帆(チケットサービス)

### 賛助会・サポーターズクラブ

荻沼美帆

尾崎真也

佐原由起

### 営業

森ゆかり

### 総務

佐原由起

竹内正道

## 賛助会員

今後も音楽文化の発展に貢献する活動を行い豊かな社会を実現するため、趣旨にご賛同いただける多くの皆様からの継続的なご支援が必要です。賛助会へのご入会をぜひご検討ください。

年会費	賛助会員	維持会員	特別会員
個人	3,000円/1口	10,000円/1口	100,000円/1口
法人	100,000円/1口	300,000円/1口	1,000,000円/1口



詳細はこちら

※会員期間：会費納入翌月より1年間

お問い合わせ：東京佼成ウインドオーケストラ事務局 賛助会担当 FAX: 03-5341-1255 MAIL: patronage@tkwo.jp

## 賛助会員の皆さま

五十音順、敬称略で掲載させていただいております。(2025年6月1日現在)

## 法人会員

特別会員 (株)佼成出版社

維持会員 エューツーリスト((株)アコード) 名古屋 宗次ホール

賛助会員	株式会社アシストジャパン	アトリエ・エム株式会社
	遠藤製作所 遠藤悦治	海鮮食堂余市の仲間達
	株式会社CAFUAレコード	管楽器専門店ダク
	建友商工(株)	鈴木住地(有)
	株式会社全音楽譜出版社	立花産業(株)
	株式会社辰美製作所	中央鉄鋼 有限会社
	フォスターミュージック株式会社	株式会社プリマ楽器
	みずほ証券株式会社	柳澤管楽器株式会社

## 個人会員

特別会員	天野 正道	加賀美 猛	田中 淳子	林 正作
	林 總太郎	久末とまこ	古沢 秀明	ミーゴ
	山内 幸人			

匿名7名

維持会員：154名 / 賛助会員：86名



## SUPPORTERS CLUB

## 東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

会員  
募集中

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)を応援したい仲間が集まるファンクラブです。

TKWOをもっと身近で特別な存在に♪

サポーターズクラブへ入会して、一緒にTKWOを盛り上げていきましょう!



詳細はこちら

## PR Supporters

PRサポーターの皆さま

敬称略で掲載させていただいております。(2025年6月1日現在)

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

## ▼店舗等一覧

アルル音楽教室  
(株)コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター  
ブレーン株式会社 広島本社  
ブレーン株式会社 東京支社  
(株)管楽器専門店ダク  
ミュージックスクール「ダ・カーポ」  
(株)セントラル楽器  
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎  
管楽器雑貨専門店pitch  
ザ クラリネット ショップ  
(株)ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京  
(株)永江楽器水戸  
野中貿易(株)  
ヤマハミュージック 横浜みなとみらい  
株式会社 池袋音楽学院  
株式会社CAFUAレコード  
大江戸シンフォニックウインドオーケストラ  
ドレミファクトリー  
フルート専門店 テオバルト  
アトリエ・エム株式会社  
イシバシ楽器 横浜店

フォルテ・オクターヴハウス  
管楽器専門店ウィンズスタイル  
フォスターミュージック株式会社  
金管楽器修理調整 浅香工房  
葡萄房 by THE CAMEL  
吹奏楽酒場「宝島。」  
金寿司  
フローリスト花六  
中華 大栴  
おぐセンター  
ワイン酒場トンマーズ  
小林メディカルファミリー薬局  
天ふじ  
立花産業株式会社  
方南町 共立薬局  
御菓子司 大和や

## ▼個人のお客様

渡邊 直子  
樫野 哲也

東京佼成ウインドオーケストラではPRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか？ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。(個人も含む)ご協力いただける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・オフィシャルサイトに掲載させていただきます。



### ファンタスティック☆クリスマス2025

2025年 12月19日[金] 開演19:00

サントリーホール 大ホール

指揮：松井慶太



### 課題曲コンサート2026

2026年 3月23日[月] 開演19:00

東京芸術劇場コンサートホール

指揮：大井剛史(常任指揮者)



## 新楽団員挨拶

### アルト・サクソフォン奏者 五十嵐健太

Igarashi Kenta, *Alto Saxophone*

本日はご来場誠にありがとうございます。

5月に入団致しましたサクソ奏者の五十嵐健太です。私は日本で生まれましたが、ハーフであるため、5歳からウクライナで暮らし始めました。ウクライナで音楽に出会い、学び始めましたが、現地では吹奏楽があまり盛んではなく、学校でも管楽器奏者が足りず、吹奏楽部を作ることができませんでした。そのためソロでの演奏が中心でした。19歳で来日してから吹奏楽を学び始め、TKWOと出会い、その魅力に深く感動しました。世界最高の吹奏楽団の一員として、美しい音楽を届けられるよう努力してまいります。さまざまな演奏会にもぜひ足をお運びください。これからもどうぞ応援よろしくお願いいたします。



### 第170回 定期演奏会

マスランカ・チクルス Vol.3

2025年 9月28日[日] 開演14:00(開場13:00)

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮 大井剛史(常任指揮者)



S席:¥6,500 A席:¥5,000 B席:¥4,000 C席:¥3,000 U25:¥2,500 ■発売日:2025/6/26(木)

### 第171回 定期演奏会

2025年 11月23日[日] 開演14:00(開場13:00)

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮 ダグラス・ボストック



S席:¥7,500 A席:¥6,000 B席:¥4,500 C席:¥3,500 U25:¥2,500 ■発売日:調整中

### 第172回 定期演奏会

2026年 1月11日[日] 開演14:00(開場13:00)

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮 大井剛史(常任指揮者)

独奏 宮田 大(チェロ)



S席:¥6,500 A席:¥5,000 B席:¥4,000 C席:¥3,000 U25:¥2,500 ■発売日:調整中

### 定期会員券 好評発売中

2025-26シーズン定期演奏会を同じお席でお得にお聴きいただけます!

席種		S席	A席	B席	C席	U25
東京芸術劇場シリーズ(全3公演)	第170回~第172回	¥14,000	¥11,500	¥9,000	¥7,500	¥6,000

吹奏楽オリジナルからポップスまで、  
みんなで選ぶ吹奏楽の新定番！

# 吹奏楽総選挙2025

16曲ずつノミネートされた7つのカテゴリの中から、  
あなたの「推し曲」へ投票をお願いします。

見事トップに選ばれた7曲は、

2026年2月11日開催

『みんなの「推し曲」コンサート』で演奏されます！

**投票期間** 予選：2025年8月5日～9月1日  
決勝：2025年9月16日～9月25日

**投票方法** X(旧Twitter)  
@TKWOJapanのアンケート機能

**有権者** 吹奏楽を愛する皆さま  
※要X(旧Twitter)アカウント

オープナー

世界の吹奏楽

マーチ

メイン

ポップス

映画・ミュージカル

日本の吹奏楽

VOTE



## みんなの「推し曲」コンサート

2026年2月11日[水祝] 開演14:00(開場13:00)

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮 大井剛史(常任指揮者) 司会 中橋愛生(楽芸員)



特設サイトは  
こちら

# TKWO 吹奏楽カフェ



定期演奏会に先立ち、大井剛史(常任指揮者)&中橋愛生(楽芸員)が、公演の演奏曲や作曲者まつわるエピソードなど、通常の楽曲解説とはひと味違う視点から語ります。ここでしか聞くことのできない会場限定の裏話などもございます。今回は、9月28日開催の第170回定期演奏会についてご紹介いたします。

第7回

2025年8月25日[月] 19:15 開店

管楽器専門店ダク「スペースDo」最寄駅「新大久保」駅

料金 2,500円(税込) 詳細はオフィシャルサイトをご確認ください

■ 共催：管楽器専門店ダク



NONAKA いい楽器をあなたのもとへ  
www.nonaka.com






**佼成出版社**  
**音楽出版室**  
 1977-2010  
 KOSEI PUBLISHING COMPANY

# KOSEIレーベルを 音楽配信サービスで

iTunes、Apple Music、Spotify、Amazon Music、LINE MUSICを  
 はじめとする各音楽配信サービスにて1000曲を超える楽曲を好評配信中！  
 1979年の初リリース以降、ポジティブに、かつ体系的に送り出されたコンテンツは、  
 質・量ともに他の追従を許さない。世界に類例を見ない吹奏楽曲の数々を配信で！

## 主な配信サービス



iTunes



Spotify

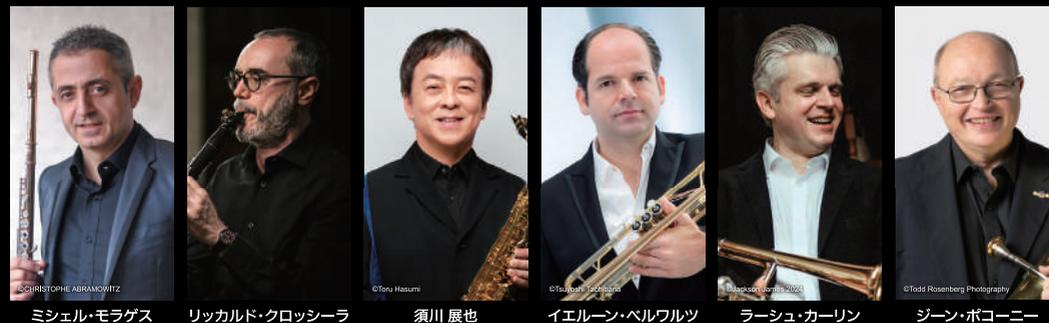


Amazon Music



LINE MUSIC

株式会社 佼成出版社  
 〒166-8535 東京都杉並区和田2丁目7-1 普門メディアセンター  
 03-5385-2311(代表)



## 第31回 浜松国際管楽器アカデミー&フェスティバル

# Opening Concert

2025 8.4 月 オープニングコンサート アクトシティ浜松 中ホール  
 開場 18:15 開演 19:00 一般 ¥4,000 高校生以下 ¥1,500 (税込) 全席自由

木管五重奏 (M.モラガス、篠原拓也、R.クロッシーラ、古谷拳一、高橋将純)  
 3つの小品 イベルル  
 ユーモレスク ツェムリンスキー  
 サクソフォン二重奏 (須川展也、國末貞仁、泉谷絵里)  
 ニュー・シネマ・パラダイス メドレー モリコーネ / 山口景子  
 パガニーニ・ロスト ~2本のアルト・サクソフォンとピアノのための~ 長生淳  
 金管五重奏 (J.ベルワルツ、菊本和昭、高橋将純、L.カーリン、G.ポコーニー)  
 組曲「こどものサーカス」より小さなサーカス・マーチ ケッツァー  
 6つの楽章 ラモー  
 ノルウェー舞曲第2番 グリーグ  
 ヤマハ吹奏楽団特別編成 (齊藤一郎、アカデミー教授陣、ヤマハ吹奏楽団)  
 生きる歓び フートリー  
 コロニアル・ソング グレインジャー  
 交響詩「ローマの松」 レスビーギ / 鈴木英史

**G.ポコーニーによる特別講座**  
 8.7 日  
 アクトシティ浜松  
 コングレスセンター41会議室  
 開場 18:30 開演 19:00  
 一般 ¥1,000  
 学生以下 無料 (要整理券・全席自由)  
 「音楽家人生における指標、よき出会い、そして...  
 ~プロ演奏家人生50年で学んだ事とは?」  
 教授陣と受講生による アンサンブルコンサート  
 8.8 日  
 クリエイト浜松 ホール  
 開場 18:00 開演 18:30  
 無料 (要整理券・全席自由)

チケット取扱い  <https://t.pia.jp> Pコード:298-308 (オープニングコンサートのみ)  
 ヤマハミュージック 浜松店 TEL.053-454-2770

お問い合わせ (株)オーバス・ワン TEL.03-5577-2072  
 (公財)浜松市文化振興財団 文化事業課 TEL.053-451-1150

公式サイト  <https://hamamatsuwindacademy.com>

主催 浜松市、公益財団法人浜松市文化振興財団、ヤマハ株式会社、一般財団法人ヤマハ音楽振興会